

上越交響楽団 第52回定期演奏会

日韓フレンドシップコンサート
上越交響楽団創立30周年記念演奏会

*The Joetsu Symphony Orchestra
The 52th Regular Concert & 30th Anniversary
Japan & Korea Friendship Concert*

- | | |
|-----------|--|
| 会場 | 上越文化会館大ホール |
| 日時 | 2002年 8月 31日(土)
午後6時開場 午後6時30分開演 |
| 主催 | 上越交響楽団
日韓フレンドシップコンサート実行委員会
上越市 |
| 後援 | 上越国際交流協会 |
| 助成 | 国際交流基金
(財)三井住友海上文化財団 |
| プログラム | ムソルグスキー:交響詩「禿山の一夜」
ドリーフ:バレエ組曲「コッペリア」より
栗山和樹:ソロパーカッションとオーケストラのための
「青邱の美しい庭」
(日韓フレンドシップコンサート実行委員会委嘱作品) |
| オフィシャルサイト | http://www.sym2002.net/ |

NAC
Niigata Asian Culture Festival

Program

モデスト・ムソルグスキー 交響詩「禿山の一夜」

レオ・ドリーブ バレエ組曲「コッペリア」より
・前奏曲とマズルカ
・ワルツ
・情景と人形のワルツ
・チャルダッシュ

～ 休憩 ～

栗山 和樹 ソロ・パーカッションとオーケストラのための
「青邱の美しい庭」
(日韓フレンドシップコンサート実行委員会委嘱作品)

第1楽章 「Fright — 激しい驚き」

第2楽章 「Grief — 憂い悲しみ」

第3楽章 「Vigor — 活力、活気」

ソロ・パーカッション 八尋 知洋

曲 目 解 説

□交響詩「禿山の一夜」(モデスト・ムソルグスキー)

ロシアの作曲家のムソルグスキーは、リムスキー＝コルサコフら5人とともにロシア国民派の〈5人組〉の1人に数えられる作曲家である。

この曲は、ムソルグスキーの管弦楽曲の代表作ということになっているが、厳密な意味でそう呼べるかどうか問題である。今日、交響詩「禿山の一夜」として演奏される曲は、ムソルグスキーが、未完成に終わった歌劇「ソロチンスクの市」で用いる予定にしていた「若者の夢」という合唱、管弦楽の音楽を、作曲者の死後リムスキー＝コルサコフが管弦楽曲にまとめ上げたものである。

曲には、次のような標題的内容の説明があり、「地下から響いてくる無気味な声。闇の精たちの登場。続いて闇の王(チェルノボーク)の出現。チェルノボークに対する賛美と暗黒ミサ。魔女たちのサバド(安息日)の饗宴。この狂乱が絶頂に達した時、遠くの村の教会の鐘が鳴り始め、闇の精たちは退散する。そして夜明け。」弦楽器から始まる不気味な闇の精の登場、金管楽器と打楽器の強奏による悪魔たちの狂喜乱舞の後、木管楽器による夜明けを告げる旋律を繰り返す弦の和音がこれを伴奏しながら消え入るように全曲を閉じる。

□バレエ組曲「コッペリア」より(レオ・ドリーブ)

名作バレエ「コッペリア」を作曲したドリーブは、北フランスのサンジェルマン・デュ・バルに生まれた。彼は、1世紀以来のバレエ音楽家の作曲家の中でも最も優れ、高雅なバレエ音楽の傑作を世に送ったひとりである。中でも小説家ホフマンの原作を人形作りコッペリウスと自動人形コッペリアを主題とした「コッペリア」の音楽は、親しみやすく、しかも気品のある美しい旋律、しゃれたオーケストレーション、生き生きとしたリズムに満ち溢れている。それらは、彼の音楽の特色のひとつであるとともに、フランス人の気質をも代表するかのように万人に愛される魅力でもある。



栗山 和樹 プロフィール *Kazuki Kuriyama*
(作曲家・編曲家)

1963年3月13日生まれ。神戸市出身。4歳からピアノを始める。幼少より映画音楽の作曲家をこころざし、自己バンドを結成しアレンジを始める。吹奏楽の盛んな兵庫県立兵庫高等学校に入学。トロンボーンを担当すると同時に指揮、編曲を経験。国立音楽大学作曲科を首席卒業と同時に有馬賞を受賞。

同大大学院に進み、電子音楽研究室研究員となる。同大コンピュータ音楽センターの設立準備から参加、同大助手を務め、文化庁芸術家在外研修制度により、米スタンフォード大学CCRMA(コンピューターによる音楽・音響研究所)に留学。ジョン・チャウニング、マックス・マシューズ、ジュリアス・スミスなど世界第一線のメンバーのもと、コンピューター・プログラミング、音楽音響学をベースにしたDSP(デジタル信号処理)を学ぶ。帰国後はアコースティックからコンピューターを駆使した作品まで、ジャンルに捉われない鋭敏な感覚で第一線の作・編曲家として活躍中。

【映画】

東映系 『極道の妻たち-決着-』(監督:中島貞夫)
松竹系 『陽炎3』(監督:吉田啓一郎) 『陽炎4』(監督:井上 昭) 『怪 The Movie』(監督:酒井信行)
今村プロ 『カンゾー先生』(監督:今村昌平):編曲
につかつ 『カッパの三平』(監督:平田敏夫) 『星空のバイオリン』(監督:中山節夫)

【TV・ラジオ他】

NHK

大河ドラマ「北条時宗」/ドラマ館「日輪の翼」/「結婚ラブソディ」/
ドラマ新銀河「素敵に女ざかり」/「芸術劇場」タイトル/芸術劇場「恋愛小説のように」

TBS系

「to Heart」/花王愛の劇場「湘南ベンション通り」/ドラマ30「ピュア・ラブ」/「ベストタイム」タイトル

NHK FM

FMシアター「茶湯寺で見た夢」/「少年II」/「シェル・シーカーズ」/「アルジャーノンに花束を」/
「グルックの冒険」/「裸足の男」/「いつかに続く調べ」/「愚者たち」/「夢源氏剣祭文」/「僕の鳴き声」/
「冬のこおろぎ」/「五月の自転車」/「香港の夜は寒い」/「古井戸」/「ありなしの茜」



八尋 知洋 プロフィール *Tomohiro Yahiro*
(パーカッション)

1961年東京都に生まれる。少年時代を10年間スペイン領カナリア諸島で過ごし、地元のラテンロックバンドでドラム・パーカッションを始める。1980年に帰国後上智大学在学中に、サンバクラブ「プラッサ・オンゼ」でハウスバンドとして演奏中スピック&スパンのリーダー

吉田和雄に見出され、プロデビュー。

そのインターナショナルな感性と確かでしなやかな音楽性は、多くのアーティストに愛され、山下洋輔、向井滋春、板橋文夫、梅津和時、渡辺香津美、阿川泰子、三好功郎、宮野弘紀、フェビアン・レザ・パネなどのジャズ界を代表するミュージシャンらとセッションを続ける傍ら、伝説のファンクバンド「じゃがたら」のレギュラーサポートを解散まで務める。

また、小野リサ、長谷川きよし、大貫妙子、さだまさし、加藤登紀子、吉田美奈子、瀬木貴将、高野寛、松田幸一、cobaらのツアーやセッションメンバーとしても参加。ジャンルの枠を超えた幅広いフィールドで世界的に活動中である。同時に海外アーティストとの交流も深く、ペドロ・アスナール、トニーニョ・オルタ、ウーゴ・ファトルーソ、ジョイス、ホルヘ・クンボらとの共演も果たしている。

現在は、山下洋輔、向井滋春とのユニット「室内楽団八向山(はっこうさん)」、長谷川きよし、岡本博文ユニット、スピック&スパン、アフリカンパーカッションユニット「ソフィケルギ」などで音楽活動を展開中。